

平成28年度危機管理対応訓練の実施結果について

1 訓練概要

(1) 目的

本訓練は、地震発生直後の初動対応に関する訓練として、今年度は新たに臨時災害対策編成員を対象に避難所開設・運営模擬訓練（以下「避難所訓練」という。）を実施するとともに、災害対策本部編成員を対象に災害対策本部運営図上訓練（以下「図上訓練」という。）を行うことにより、発災時刻について勤務時間内及び勤務時間外双方を想定し、職員の危機対応能力の更なる向上を図る。

(2) 実施内容

合計254人の職員の参加により、避難所訓練と図上訓練を実施した。実施に当っては、民間事業者に委託し、（以下「訓練受託者」という。）専門的な知見を活用した。

ア 避難所訓練

(ア) 実施日時

平成28年12月9日（金）午後2時から午後4時まで

(イ) 実施場所

シビックセンター会議室

(ウ) 内容

勤務時間外となる深夜（1時30分）の発災を想定し、発災してからの避難所までの参集経路の確認等、移動に関する事項及び避難所に到着してからの開設・運営業務について、講義とワークショップ等で模擬的に訓練を実施した。

(エ) 参加者

臨時災害対策本部編成員（勤務時間外）から事前に指定した以下の職員 計76人

【内訳】

- ・地域活動センター班職員（チーフとサブチーフ）：12人
- ・避難所開設班職員（チーフとサブチーフ等）：54人
- ・危機管理室（危機管理課・防災課）職員：10人

イ 図上訓練

(ア) 実施日時

平成28年12月16日（金）午前8時45分から正午まで

(イ) 実施場所

防災センター、シビックセンター会議室及び各職場

(ウ) 内容

勤務時間内での発災を想定し、防災センター参集職員の対応能力育成に重点を置き、2部制で実施した。第1部はシナリオを開示して訓練受託者がレクチャーをしながら行った。第2部ではシナリオを伏せて進行することで難易度を変え、段階的な習得を目指した。自席従事の職員は、防災センター参集職員の補助とあわせて、「すぐやるリスト」の一つである「職員動員名簿」の作成及び「文京区事業継続計画」(BCP)の視点を意識した各課初動対応訓練により、訓練内容の充実を図った。

(エ) 参加者

災害対策本部編成員(勤務時間内)から事前に指定した職員 計178人

【内訳】

- ・ 災対各部職員(防災センター参集)：66人
- ・ 災対各部職員(各職場従事)及び初動対応訓練参加職員：112人

2 主な実施内容と改善した点及びその効果

訓練受託者により、検証結果をとりまとめた。なお(2)については、別途、評価及び検証会議を実施し、とりまとめた。

(1) 避難所訓練

- ・ 参加者の理解を深めるため、熊本地震、常総市水害等過去の災害を例に取ったスライドを使用して講義を行った。
- ・ 参加者の意識を高めるため、講義後に「地震発生直後の行動」及び「避難所到着後の行動」の2つをテーマに、参加者同士による討論・発表を行い意見共有し、訓練受託者が解説を加えた。
- ・ 参加者からの感想として、避難所参集後のことに意識が向くことが多かったが、発災から参集までの流れも机上訓練で考えることができ、理解が深まったとの声が得られたため、一定の効果があったと考えられる。

(2) 図上訓練

ア 全体

・ 事前に訓練受託者により、研修を含めた説明会を2日間にわたり行い、知識付与を行うとともに、各部ごとに訓練当日までの事前準備を行い、検討を深めて訓練に臨むことを求めた。また、災対福祉部のように、訓練内容に沿った部単独訓練を同時並行で行うなど、部ごとの意識向上が認められた。

イ 防災センター参集職員

- ・ 災対各部ごとの情報共有について状況が把握しやすくなり、理解が深まることを目指し、情報管理票・事案採番表の様式及び大地図・ホワイトボードの表示方法の見直しを行ったうえで訓練を実施した。
- ・ 指示・判断機能について、情報部が担当すると負荷が偏るため、昨年度より本部に集約

しているが、本部室を含め、各部間の連携体制を密にすることを旨し、重大案件については、その都度、大地図の周りに各部が集合して協議するよう改めた。

- ・より効果的に行うため、センター内のレイアウトを本部、情報部、本部長室が近接するよう変更して臨んだ。
- ・参加者からの感想として、昨年度と比べて良くなっているが、所掌が複数の部に重なる事案については各部間の連携をより深める必要があるとの声があった。

ウ 自席従事の職員

- ・防災センター参集職員と、自席従事の職員との間の連携を深めるため、各職場から情報を付与させるなど、連絡回数が増えるような仕組みにした。
- ・通信手段の改善として、防災センターに、臨時の内線電話を複数台設置した。
- ・「職員動員名簿」による安否確認について、定時連絡を行い、進捗状況を確認するなどしたため、昨年度より短時間で集計することができたが、様式については改善点が発見された。

エ その他

他機関（消防署）による講評

- ・区は災害の対応部署が多岐にわたるが、本部長の前に各部長が集まって重要情報を共有し、直ちに指示を出す流れが非常に良かった。
- ・情報管理票について、災害種別ごとに色分けされており、一目で情報が分かるので、非常に良い。消防署でも使いたい。
- ・庁舎の被害状況や職員の被災状況調査が必要で、特に出先機関が機能しているかどうかを共有すると、その後の流れがよりスムーズになると思われる。
- ・勤務時間外の発災なども含めて訓練を積むことにより、想定外の事態に対する対応についても検討していただきたい。